

二〇一三年間報告 早稲田大学



木島平維新

今に気づく

未来を築く



enactus
Waseda

【木島平村とは？】

長野県北部に位置する人口約5000人の村です。古くから米や野菜などの農業が根付き、緑いっぱいの山や田畑が広がっています。美しい野川には梅花藻（バイカモ）が咲き蜜が飛び交います。懐かしさを覚える「田舎らしさ」溢れる村です。

【木島平村の課題】

- 過疎化：8,206人（1955年）→4,939人（2010年）に減少
- 高齢化：高齢者比率32.2%《全国平均の1.46倍》→全国平均と比較し、約30年先行
- 若者が村から出て行くことで、農業の担い手が減少
- 観光客が少ない
- 将来消滅してしまうという危機感を持っている村民が少ない

【取り組み】

私達は上記の問題を解決するために、「木島平維新～今に気づく、未来を築く～」というプロジェクトを始動しました。私達は、今木島平にある価値を維持しつつ、学生の斬新な発想をもとに新たな可能性を見出していくことを目指しました。村と都市の人に木島平村の魅力に気づいてもらうことで、木島平村の未来を築く「礎」ができるからです。そして私達は提案と試行錯誤を経て、「SEED」・「農村文明塾」という2つの取り組みを実施しました。



01 STEP S·E·E·D

S: Social E: Economic E: Environmental D: Destination



【SEEDとは？】

- 経済的要因
- 環境的要因
- 社会的要因

というトリプルボトムラインをすべて満たしたそばうち体験事業の総称。

【活動内容】

主にそば打ち体験を提案・実行し、下記の4つを実現

- 1) 高齢者に職場を提供
- 2) 耕作放棄地を整備
- 3) 観光資源の周知
- 4) 都市からの観光客誘致

【活動結果】

- 1) 高齢者に社会参加の機会を提供
- 2) そば栽培による耕作放棄地の減少
- 3) 年間180万円を越える観光収入の確保
- 4) 1,107人の観光客増加

【対象者】

- 1) 木島平村に住む高齢者
- 2) 木島平村役場の職員

【対象者の課題】

- 1) 高齢者
 - ① 高齢者の孤立
 - 木島平村の一人暮らしの高齢者比率19.8%（全国平均15%）
 - ② 耕作放棄地の増加
- 2) 村役場職員
 - ① 若年人口の減少
 - ② 観光客の少なさ



02 STEP 農村文明塾

「農村文明塾」とは——村民共同で「誇れるふるさと木島平」を実現するためのプロジェクト。



【農村文明とは？】

農業を基盤として自然と共存した、豊かな村を作り上げていくことを目的に、「農村の価値を再認識すること[=学び]」「今の時代に適した形へ変化[=生かす]」「村民が村に住む自信と誇り[=暮らし]」に焦点を当てて活動を展開。

↓
村民共同で「誇れるふるさと木島平村」実現を目指す

【活動内容】

都市の大学生が村でフィールドワークを行い、下記の4つを実施

- 1) 都市の大学生20名と共に集落維持に向けた事業やアイデアを提案
- 2) 現状調査で村の魅力・問題を発見
- 3) 村民が主体的に活性化に関わる意義を発見
- 4) 都市学生のためにフィールドワークの機会を提供

【活動結果】

- 1) 木島平村長の自信向上と交流事業実施
- 2) 村民が村の危機を実感
- 3) 村民の自主的な活性化

【対象者】

- 1) 木島平村村長
- 2) 木島平村民
- 3) 都市部に住み、過疎地域に関心のある大学生

【対象者の課題】

- 1) 村民
 - 地域活性化に無気力・無関心
- 2) 学生
 - ① 農村過疎化問題に取り組む手段不足
 - ② 人間関係の希薄した社会しか経験がない
 - ③ 農村文化を知らないで、将来日本の農村を支えていく事が困難
- 3) 村長
 - 過疎化問題解決に取り組む活力を持たない



経済的 01 社会的 環境的要因

【経済的要因】

- S+農:** 村内の資源を使い、都市から村へお金が流れるシステムを構築
- S:** 高齢者にそば打ちという新たな雇用を創出、そば収穫量11tに増加
 - 農:** 継続的な収入源を確保（リピート率35%）
 - S:** 観光客：1,107人 **農:** 参加者：65人
 - S:** 経済効果：1,809,646円 **農:** 経済効果：2,528,000円
- S+農:** 経済効果：4,337,646円

【社会的要因】

- S+農:** 村民と都市から来た観光客・大学生との交流の場を形成
- S+農:** 村民と学生が村の伝統文化や農村文明の重要性を認識
- S:** 手先を使うそば打ちによる高齢者の老化防止
 - S:** アントレプレナーシップを持った57名の住民が集まり、更なる経済効果を目指すコミュニティ約20個を形成
 - 農:** 「村長サミット」で村同士がつながり、他村を巻き込む活動を展開
 - 農:** 地域活性化に無気力であった村民が「この村を守っていこう」と思えるように意識改革

【環境的要因】

- S:** そばの実を栽培し耕作放棄地が11ha減少（東京ドーム2.4個分）
- S:** そばの実の特性により害虫獣が大幅に減少

対象者の課題 03

- | | |
|--------------------------------|------------------------|
| 1) 高齢者 | 3) 木島平村村長 |
| ① 高齢者の孤立 | ① 自村への自信欠落による交流事業化への不安 |
| 木島平村の一人暮らしの高齢者比率19.8%（全国平均15%） | |
| ② 耕作放棄地の増加 | 4) 木島平村民 |
| | ① 村消滅への危機感の欠如 |
| 2) 村役場職員 | ② 地域活性化に無気力・無関心 |
| ① 観光資源の不認識 | |
| ② 観光客の少なさ | 5) 大学生 |
| | ① 農村過疎化問題に取り組む手段の不足 |
| | ② 人間関係の希薄した社会での生活 |

生活の質 05 生活水準

【生活の質】

- S+農:** 村外のひととの交流を通し村の魅力を認識させることで、村民としての誇りや生きがいを形成
- S:** 交流機会の増加により高齢者の孤立を解消
 - 農:** 初めての村長サミットを通して、他村が村として存続していく明るい未来を発見

【生活水準】

- S:** そば打ち体験の参加費を徴収することで高齢者の収入増加
- 農:** 全国村長サミットで木島平村に他村の村長やマスコミが訪れることにより、木島平村民の収入増加

S+農: SEEDと農村文明塾どちらも
S: SEED
農: 農村文明塾

02 エンパワ メント

S: 仕事を持たない高齢者が事業に参加、村民自らそば打ち産業を運営できるよう全面的支援

農: 学生と村の交流事業を企画、村長の「農村文明塾」設立への自信育成

農: 村長による村民の自発的なエンパワメント、今では村民はソーシャルメディアで村の魅力を自主的に発信

農: 全国初の「村長サミット」を木島平村村長が開催、全国1/4の村長に村存続の希望と自信の植え付けに成功

04 起業家的 アプローチ

S: 環境破壊の原因となる農作放棄地を有効活用し地産地消による低コストで持続的な事業運営

S: 初心者でも栽培しやすく、短期間で収穫可能なそばの実を観光事業の資源として選択

農: 域学関係を結ぶことにより持続的な経済効果を創出

農: 村長から村存続のための意識を変えることにより、効率的かつ建設的なプロセスでの地域活性化を実現

これからの取り組み...

★旧トマトケチャップ工場跡地、第六次産業、新チームで...

「農の拠点施設でのアグリビジネス事業」—第六次産業を創出するプロジェクト

- ★木島平村は現在、木島平型複合アグリビジネス事業として村の玄関口にあたる旧トマトケチャップ工場を村が買収して、今後改修し、農の拠点施設を設けようとしている。
- ★現在、Enactus Wasedaはこの工場を活かすビジネスプランの提案を10月上旬まで行う。運用面でも関わっていく予定。(この関わり方について6月26日正式に契約)
- ★Enactus Wasedaは、柔軟なアイデア・発想で新しい事業を提案する。

村として特産物の生産(第一次産業)、加工(第二次産業)、流通(第三次産業)に一貫して取り組み(=第六次産業の創設)、農家の手取りが保障された流通形態を構築。そして地域での経済の循環、就職の場を創設することでの雇用拡大を図る。この事業は村の最優先事業である。そこに、村の資源を生かしつつ、さらに学生らしい視点と熱い情熱を持ってEnactus Wasedaは関わっていく。



BUSINESS ADVISOR



早稲田大学社会連携推進室

奥山龍一

Enactus Waseda



●Enactus Wasedaとは...

2009年より Enactus Waseda本格始動
メンバーは25人(2013現在)

私達は、国内大会において2連覇している実力が 있습니다。

私達は木島平村におけるデルモンテ利用法の提案や国内外での新プロジェクトを実行しています。

●Enactus Waseda Project:

1. e-Education Project 代表 税所 篤快
2. Khadi Project 代表 安寿メタ
3. 木島平 Project 代表 蓮見ネマニ、森本貴満



詳しくは、こちらまで

